



SERVICE Above Self

2005～2006年度RIテーマ

超我の奉仕

国際ロータリー第2640地区 第2組

INTERCITY MEETING

2006年2月4日(土)

第一部 和歌山マリーナーシティ「わかやま館」
第二部 ポルトヨーロッパ「インターナショナルシアター」

I・Mテーマ「超我の奉仕」

第2640地区ガバナー 平尾 寧章 (海南東RC)

ゼネラルリーダー 小島 哲 (泉大津RC)

参加ロータリークラブ

有 田RC	有田南RC	有田2000RC
御 坊RC	御坊東RC	御坊南RC
海 南RC	海南東RC	海南西RC

ホストクラブ



国際ロータリー第2640地区

海南西ロータリークラブ

ROTARY CLUB OB KAINAN WEST

事務局 〒642-0002 海南市日方1294-18 海南商工会議所 4F

TEL: 073-483-6666 FAX: 073-483-2266

E-mail: kainanwestrc@yahoo.co.jp

program

第一部

時間	内容	担当・その他	会場
10:30~11:00	登録受付	ホストクラブ 海南西RC	わかやま館入口
11:00~12:00	ロータリー財団委員長会議 円卓	カウンセラー 小島 哲 泉大津RC インストラクター 岩本行弘 富田林南RC インストラクター 坂本順一 和歌山RC 司会 石田 侃 海南西RC 記録 坂上欣也 海南西RC	304号 (わかやま館)
	米山記念奨学会委員長会議 円卓	インストラクター 神谷尚孝 和歌山東南RC 米山奨学事業委員 浦口英尚 和歌山城南RC 司会 河野 孝 海南西RC 記録 田井 徹 海南西RC	305号 (わかやま館)
	フレッシュ会員の集い 職業奉仕委員長会議 列	ガバナー 平尾寧章 海南東RC カウンセラー 水田博史 岸和田東RC インストラクター 桃田隆彦 和泉 RC 職業奉仕副委員長 角谷浩二 泉南RC 職業奉仕委員 丸山信仁 御坊RC 職業奉仕委員 松生 満 忠岡RC 司会 深谷勝英 海南西RC 記録 川下博生 海南西RC	303号 (わかやま館)
12:00~13:00		昼 食	各委員会室

第二部

時間	内容	担当・その他	会場
12:30~13:00	登録受付	ホストクラブ 海南西RC	わかやま館入口
13:00~13:30	開会 点鐘 国歌・ロータリーソング 開会の言葉 歓迎の挨拶 ガバナー挨拶 ゼネラルリーダー挨拶 パストガバナー及びガバナー補佐紹介 地区役員紹介 参加クラブ出席報告	司会 I.M S.A.A 橋中雅巳 海南西RC ホストクラブ会長 岩崎利明 海南西RC ソングリーダー 藤本謹三 海南西RC I.M 委員長 神出勝治 海南西RC ホストクラブ会長 岩崎利明 海南西RC ガバナー 平尾寧章 海南東RC ゼネラルリーダー 小島 哲 泉大津RC ゼネラルリーダー 小島 哲 泉大津RC I.M幹事 川嶋寛昭 海南西RC I.M登録出席委員長 田井 徹 海南西RC	
13:30~14:30	基調講演 「体験してみなければわからない」 ブラスバンドパフォーマンス	海南市立第三中学校校長 今川 伸 氏 海南市立第三中学校吹奏学部	休憩をはさみます
14:30~16:00	全体会議 テーマ「超我の奉仕」 各クラブより発表 (各クラブ約5分)	発表者 沖殿正博 海南RC 青木美典 海南東RC 浅井修一郎 有田RC 大崎敏明 有田南RC 前 任 有田2000RC 丸山信仁 御坊RC 栗林久一 御坊東RC 林 猛 御坊南RC 富岡 宏 海南西RC	インターナショナル シアター (ポルトヨーロッパ)
16:00~16:30	閉会式 総評 謝辞 次回ホストクラブ紹介 次回ホストクラブ会長挨拶 閉会の言葉 手に手つないで 閉会点鐘	司会 I.M S.A.A 橋中雅巳 海南西RC ゼネラルリーダー 小島 哲 泉大津RC ガバナー 平尾寧章 海南東RC ガバナー 平尾寧章 海南東RC 次回ホストクラブ会長 川村克人 有田 RC I.M 副委員長 深谷勝英 海南西RC ソングリーダー 藤本謹三 海南西RC ホストクラブ会長 岩崎利明 海南西RC	

歓迎の挨拶



皆様 こんにちは。本日のIM開催にあたり、ひとこと歓迎のご挨拶を申し上げます。
立春とはいえまだまだ寒い中 平尾ガバナー 小島ゼネラルリーダーはじめガバナー補佐
パストガバナー 地区役員の皆様方には公私が多忙のところ、ご出席を賜り誠にありが
とうございます。

また、2組の会員の皆様には多数ご出席いただきありがとうございます。

これより本会議に入りますが、ロータリー第2世紀目のスタートの年でもあり、原点に
立ち返り、テーマをRI会長のいっておられる「超我の奉仕」とさせて頂きました。
後ほど各クラブ代表の方々の意見発表もごございます。

今日1日が有意義な会議となりますよう、どうか最後までよろしくお願いいいたします。

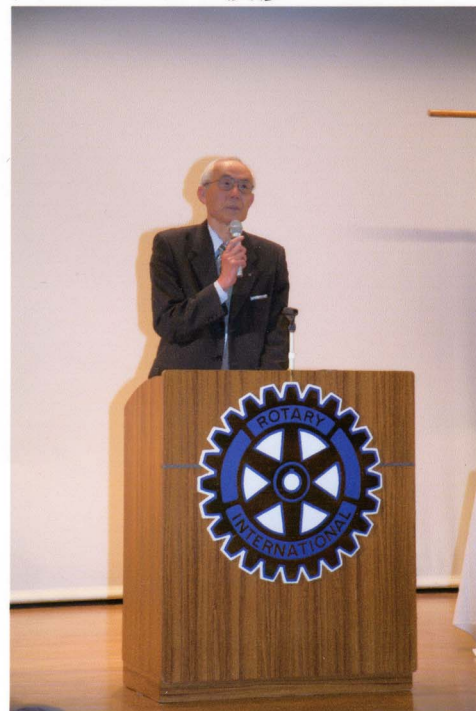
最後に、小島ゼネラルリーダーはじめ、御指導いただきました関係各位に感謝申し上げ
ますと共に、皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念申し上げ、簡単ではございますが、歓迎
の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございました。

ガバナー挨拶



ゼネラルリーダー挨拶



基調講演 「体験してみなければわからない」
海南省立第三中学校校長 今川 伸 氏



ブラスバンドパフォーマンス

海南省立第三中学校吹奏楽部





意見発表

海南ロータリークラブ 発表者 沖殿 正博

IMテーマ 「超我の奉仕」

私 海南ロータリークラブ会員の沖殿正博と申します。本日の第 2640 地区、IM2 組、インターシティ・ミーティングにおける全体会議テーマ「超我の奉仕」について私としての考えを述べさせていただきます。

2005-2006 年度、RI テーマが「超我の奉仕」を掲げ、ロータリアンの行動の指針としています。この「超我の奉仕」の原型とされる「Service Not Self」は 1911 年の大会で、ミネアポリスクラブ会長であった ベンジャミン・フランク・コリンズが大会エキスカッションの船上で述べた演説の一説であります。それがいつ誰によって「Service Above Self」に変えられたかは、いまだに不明であります。その「Service Above Self」を超我の奉仕と翻訳された意を汲み取り、ここは素直に「超我の奉仕」はロータリーの哲学であり、奉仕の精神であり、心として全ロータリアンの行動の指針であると、私は思っております。

ここで、「超我の奉仕」の心に触れた私の体験をご紹介します。それは昨年 7 月 16 日 地区社会奉仕・環境保全委員長会議のときであります。第 2640 地区内 8 クラブの特徴ある活動の発表がありました。その一つに、御坊ロータリーク

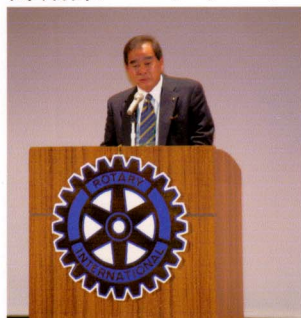
ラブ 高間社会奉仕委員長の発表があり、御坊ロータリークラブ50周年記念事業についての発表をされました。私共 海南ロータリークラブも50周年記念事業として地域内中学生約2000名を対象に招待し県民文化会館にて二部構成にて「ハッピーコンサート」を開催しておりましたので、私は大変関心を持って聞いておりました。御坊ロータリークラブの発表は、東京にオリンピックを呼んだ男として、和歌山御坊出身の日系2世 和田勇氏の話を発表されました。私は大変新鮮なる感動を覚え、高間様とは初対面でありましたが、厚かましくも、和田勇氏に関する簡単な資料をと、お話を致しましたところ、後日、早々に和歌山市民図書館より和田勇氏に関する詳しい資料を取り寄せ、合わせて作成されたビデオテープ、小学生向けの和田勇物語の本、等々を取りまとめて送って頂きました。私は簡単な資料のつもりでしたので、この高間氏の心のこもった行為に対し大変な感動を覚え、早速7月27日の海南ロータリークラブ例会において、私より詳しく説明して、ビデオ上映を致しました。全く初対面の私の話にロータリアン同士とは申せ、高間氏の取られた行動は、まさしく「超我の奉仕」の心と思います。

あらためて、私はロータリー活動とは清い精神と心であると強く感じます。

最後になりますが、健康な体と健康な心を養い、ロータリー発展の為に、皆さん共々に頑張りましょう。

これにて私の発表を終わらせて頂きます。

海南東ロータリークラブ



有田ロータリークラブ



有田南ロータリークラブ

ロータリークラブに入会して今年の一月中でまだ4年生ですが、そろそろ活動のマンネリ化を感じている時に、世界社会奉仕委員長という大役を仰せつかりました。

私たちのクラブは現在2002～2003年度にスタートしたフィリピンのサンタローザ・ロータリークラブとのWCS活動を継続しております。

スタート時点での大きな課題は、確かな奉仕活動のできる地域を決めるという点で、これに関しては長年にわたって実績を積んでこられた和歌山中R.C.に指導を仰ぎ、サンペトロR.C.を介してサンタローザサウスR.C.を紹介していただきました。この活動を立ち上げ、パイプを作るために和歌山中R.C.の宮本会長には大変なご尽力をいただきました。

対象となる地域を決定するにあたっては日本から飛行機で3時間から3時間半という比較的近距離であるという点で、フィリピンを選ばせていただきました。

活動の内容は、両親ともが定職につけず、臨時の仕事などで、低収入で生活する人々の、修学前の（3歳から7歳くらい）子供達を預かっているデイケアセンターの修復です。

デイケアセンターの修復に関しては、古くなって壊れた椅子の修理、テーブルの購入、屋根の雨漏り修理、フロアのタイル張り工事、流し台や、壁の再塗装など必要のあるリストを、提出してきました。

彼らは、本、おもちゃ、音楽楽器などのためのキャビネットも必要としていました。先生方は、シーソーやブランコなど、遊具のある運動場の必要性や、エアコン設備の充実も訴えていました。

学習をより向上させるためにビデオや、オーディオセットも必要でした。本及び他の学習教材も彼らの必要とするもののトップにあります。

これらすべての必要性に答えるためには、合計¥477,420の資金が必要で、当クラブが¥150,000、地区が¥150,000残りの¥177,420をサンタローザサウスR.C.が提供しました。

その後、この成果と、現状を知るために、昨年二月、自費で当クラブの塩路、藪野両氏が現地に行ってきました。

現地ではホテル泊ではなく会員の方のお宅でお世話になり、家族の方々の心のこもった歓迎を受け、胸の詰まる思いとともに、この活動の意義をあらためて認識し、『超私の奉仕の精神』の意味を深く感じたそうです。

現在、さまざまな問題をかかえる世界情勢の中、日本は幸せな国であるといえるかもしれません。生きることの基本である食糧事情においても、栄養不足状態にある人の数は、60億を越える世界人口のうち、8億5200万人、にものぼり、そのうち96パーセントがアフリカ、インド、中国、アジアなどの途上国に集中しているといわれています。

世界人口のわずか2パーセントに過ぎない日本が1984年以降世界一の農産物輸入国。穀物自給率は世界173カ国の中で124位、約28パーセントしかないそうです。それなのに1年間に出る生ゴミの量は2000万トンにもおよぶとききました。これはどうなっていることでしょうか

私はある本の中で頭から離れない言葉があります。飢餓により死んでいった人の言葉ですが、「もし、あの世に食事があるのなら、今それを食べたい！もし、あの世に食事があるのなら、今それを食べたい！」

今、この言葉を思い出し、ロータリアンとして、もっともっと世界に目を向け、奉仕の心を築いていきたいと思えます。

有田2000ロータリークラブ 前 任

私はロータリークラブに入会して、まだ1年と数ヶ月しか経過していません。また、毎週ホームクラブの例会に出席することもならず、月に1回のペースでメイキャップに追われている状態の会員であります。先輩諸氏から見れば、まるでよちよち歩きの赤ん坊、また大相撲たとえるなら、新弟子検査を終え、初土俵を踏んだばかりの序の口の力士のようなものであります。さらに、勉強不足を晒すようですが本年度のテーマ「超私の奉仕(SERVICE Above Self)」は、1911年に採択され、以来90数年に渡り標語として、また最も的確にロータリーとロータリアンの精神を言い表している事についてすら、最近まで知りませんでした。このような私がIMの場で発表すること自体、非常に心苦しく感じております。ですから、本日はこの発表会の趣旨にそぐわないかもしれませんがお許し頂きたく存じます。

私はロータリークラブに入会してまだ日が浅いので、ロータリークラブの会員としての奉仕の経験は、ほとんど無い状態であります。個人的には、地域の各種団体等を通じて、様々な奉仕活動を行った経験はあります。よって「超私の奉仕」についてロータリアンとしてどう考えるか？等と言うことは、非常に表現しづらく、また、勉強不足もあり、あえて今回は回避し、一般的な観点から考えを述べたいと思えます。

奉仕活動については、その活動を行うことにより、金銭や種々の利益を求めない事は承知していますし、様々な見返りを要求するのであれば、当然それは営利とまでは行かないとしても、「奉仕」ではないと思います。私も過去に奉仕活動またはそれに類するものを行ったことは沢山ありますが、見返りを求めたことはありませんでしたし、求めるべきものではないと思っております。

しかし、昨年末にクラブの会長から今回の依頼を受けてから、「果たして自分は奉仕活動したときに何も求めていなかったのか？」と言うことを原点に戻って色々と考えてみました。その中で、積極的に求めたのではないのですが、奉仕活動に対して求めているものがありました。それは、その活動を行ったという「充実感」や活動をやり遂げた「達成感」を求めていたように思います。過去に様々な奉仕的な活動において、企画段階より主体的に取り組んだものや、部分的にしか取り組まなかったものなどありますが、大なり小なりその活動にかかわった時には、そのような精神的見返りのようなものを無意識のうちに求めていたように思います。私は、ある種それを得ることにより、また次の活動へ参加する意欲を駆り立てる、そして、エネルギーを奉仕活動へ導く糧にしているように思います。

先輩ロータリアンのように様々なプログラムを受講され、自身の能力を高めていらっしゃる方々から見ると、そのようなレベルは遙か昔に克服済みかもしれませんが、奉仕活動に対し本当に何も求めない「超我の奉仕」または「無私の奉仕」のレベルに達するのは、私にとっては非常に難しいものです。私は一人のロータリアンである前に、一人の人間であります。しかも、まだまだ無知で未熟な若造であります。

私利私欲を捨て、己を殺し、奉仕活動を行う「超我の奉仕」について、わずか1年間で達成することは多分できないと思います。ともすれば、生涯の目標になると思います。人間であるかぎり、私は「無」の境地に自らを置く事は難しいのではないと思います。

「超我の奉仕」を実践されている先輩諸氏のように、自らを律し、自己を無欲の境地に置くことができる人間になれるよう、日々努力をしていかなければと考えます。国際ロータリーでは2005-06年度のテーマではありますが、私にとってこの「超我の奉仕 (SERVICE Above Self)」というテーマは生涯の目標になるほどの奥の深い言葉と感じております。

御坊ロータリークラブ 職業奉仕委員長 丸山 信仁

我々御坊クラブは昭和29年2月に承認頂き早53年が経ちます。その間色々な奉仕に取り組みで参りました。1970年6月にローターアクトを設立以来青少年の育成に取り組みで参りました。アクトと共に地域の清掃活動に取り組み又献血にも取り組みできました最近では献血を年2回取り組み地域ではアクトの献血が定着をしてきました。これも我がクラブのメンバーが子供達を育てた奉仕の形だと思います。

又青少年のスポーツ大会の後援に取り組みサッカーでは地元からJリーガー1名出ています。ソフトテニスでは我がクラブのお陰で、私の子供とペアーでインターハイ優勝・中学3年生が昨年一昨年と都道府県対抗の大会で全国優勝・準優勝など沢山の子供達が全国制覇を目だし頑張っています。

5年前にボーイスカウトを御坊で復活させる為メンバーがキーマンとなり再建を果たしました。以後毎年色々な体験をさせています。後援を継続して行っています。

最近では、中学生の職業体験を学校と共に考え4年前より各地域の中学校と手を組み子供達に色々な職業を体験させています。先ほども基調講演でのテーマになったキャリア教育実践プロジェクト「キャリア・スタート・ウィーク」にも教育委員会と各奉仕団体と共に推進委員会を立ち上げ協議を重ねて参りました。18年度湯川中学・名田中学の2校、19年度は河南中学・御坊中学の2校を受け入れの準備をしています。

職業を通じて子供達に色々な体験をさせ地域と共に子供達を育てていけるようにメンバー一人一人が真剣に取り組んでいます。社会奉仕・国際奉仕部門では地区からの義捐金の要請以外に我がクラブとローターアクトと協力をしながら募金活動を行っています。昨年は、宮崎県延岡ロータリークラブに協力を願い、義捐金を送りました。我々のクラブは昭和28年の水害でロータリーからの援助を頂いた事からクラブを設立しています。そのため自然災害時の援助のありがたさは、チャーターメンバーから我々若いメンバーに語り継がれています。これからもクラブを上げて努力をしてきます。

最後にチャーターメンバーで名誉会員の小谷真一君の言葉をお借りし報告を終わらせて頂きます。我々御坊ロータリークラブのメンバーは個人個人質素な生活を行い賢明に事業の繁栄を行い地域の方々の為になる事を行うように努力して行きます。

御坊東ロータリークラブ 栗林久一

入会して六年が経ちました。2006年の新しい年を迎えまして、気持ちを新たにしているところでございます。

私たちクラブは、皆様のご指導ご支援のお陰を持ちまして、この2月14日に10周年の創立記念日を迎えます。このテーマは「一名純増の会員と共に10周年を祝おう！」であります。

3月12日(日)には、ささやかではございますが記念式典を行う予定です。その節は、宜しくお願い致します。

さて、ロータリーの真髄であります職業奉仕、私たちは日頃から一人ひとりの職業を通じて地域、社会に何等かのお役に立てればと頑張っております。

職業というものは私たちが、生活をしていく上でとても大切なものであります。職業人が仕事をする事は、自己の為は勿論その従業員又は家族のために利益を得なければなりません。少しでもお客様に喜んでもらえる、また満足して頂ける仕事をしなければなりません。

私がロータリークラブ入会の推選を受けた理由は、その職業分類において職業を代表する資格がある人物だと信頼してくれたからだと思えます。私はこの信頼を決して裏切らないように自分自身の日常生活において倫理と誠意の基準を実践していきたいと思えます。

私たちは、青少年の為のプログラムの一つに「新世代のためのロータリープログラム」があります。その使命の中でロータリアンの責務は若い人すべてを含む新世代の多様なニーズを認識しつつ、よりよき未来を確実なものとするために新世代の生活力を高める事によって将来への準備をさせることである。

と、プログラムにも唱えてあります。

そこで、私たちは文芸・スポーツ・ボランティア等の分野を問わず高校在学中にたゆまなく努力を継続し、その業績が卓抜している、そして他の模範と認められた生徒を称え「御坊東ロータリークラブ賞」として地元の四校の高校3年生を対象として各校3名を表彰いたしました。

私たちの未来のためにもこの子達の活躍を期待している所でもあります。ところで皆さん

もご周知のとおり、近年フリーターやニートなど、若者の就業意識の希薄化が深刻な社会問題となっています。

そこで和歌山県教育委員会から私たちに「キャリア教育実践プロジェクト」すなわち中学生の生徒1人ひとりに望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるための職場体験学習事業の依頼が来ています。平成18年度から2ヶ年となっています。

まさにこれは、私たちロータリアンが職業を通じて青少年の範となるよう又地域社会全般に貢献できる絶好の機会だと思います。

私の子供の時代は、よく家の仕事を手伝わされました。また欲しいものがあってもあまり買ってもらえませんでした。

でも今思えば辛抱する事、また我慢するという事を教えてもらったような気がします。

年末の毎日新聞の記事に「被災時に立ち上がった中学生」そして「僕らが地域を守る」という去年3月20日に起きた福岡沖玄界地震で宮川構太君という中学二年生の子供がとったすばらしい行動のことが書かれていました。

玄界島は消防車は一台もなく、つねに火事の心配がつきまとう。そして男たちの大半が漁に出ると防災を担うのは中学校の生徒16人や女性たちだったという事です。

私はこの記事を読んで、こんな素晴らしい中学生がいるのだと感心しました。小さい頃から、防災意識を持つような取り組みをしてきたからだと思います。「意識を持たせる」ということは防災に限らず全ての面において、子どもたちが成長していく過程で大変重要な事であると共に、私たちが少しでも手助けをし、そして私達自身も意識する必要があると考えます。

『若い世代がやりがいのある仕事に就く事ができ、子供達の可能性に対しては、平等な機会が与えられるような社会を作り、希望を与えられるように私たちは頑張っていかなければなりません。』…こんな言葉文字は、「だったら良いですね。」と言う言葉でしかありません。

赤信号みんなで渡れば怖くない！…いや、私は少しコワイのですが、多分車は止まってくれるだろうと言う安堵感が出てくるからだろうと思います。

要は一人では出来ないが、みんなとやれば出来ると言うことでしょうね。

私は試したことがないですよ。

この問題については、我々が『ロータリアンとして出来ること』に絞られてしましますが、逆に『ロータリアンだから出来ること』と読み違えた方がもっとその輪が広がり、自分では出来ないが「あの人だったら」と言うことも十分に考えられます。

ロータリークラブに在籍しているのですから、一人ではないのですから、沢山の友もいます。

先程、私たちが少しでも手助けをし、そして私達自身も意識する必要があると申しました。多分一人では出来ません、ここにお集まりのロータリアン全員が今から同じ志を以て頂くだけでも、本日の成果ではないでしょうか。

ありがとうございました。

皆さんこんにちは、私は御坊南ロータリークラブで職業奉仕副委員長をしています林猛と申します。

本日の全体会議のテーマが「超我の奉仕」ということですが、基調講演の内容が中学生の職業体験であるということから、職業奉仕委員が発表するのが適当ではないかという事で本日この場に立つこととなりました。

さて、私たち御坊南ロータリークラブでも職場体験の奉仕活動を数年前から取り組んでおります。

その対象は地元の県立高校である、紀央館高校と言いまして数年前までは御坊商工と言う校名で実業高校でしたが、普通科設立を機に校名を紀央館高校と変更しています。

受け入れの人数に付きましては数名しか受け入れることが出来ていませんが、と言うのも、職場体験を受け入れることの出来る事業所は近隣であること、また、生徒たちのニーズに合うものなど、様々な条件が重なりすべてを満足できないのが現状です。そのためクラブ員の事業所も、一部の限られた事業所となってしまっていますが、それでも学校側からは好評を頂いており毎年継続した事業となっています。

今年も依頼が参っておりますので実施する予定で取り組み中です。

それに加えて、本年は地元御坊市教育委員会の依頼を受けて、市内の二つの中学生の受け入れも行う予定で現在、受け入れ可能な事業所を募集しているところであります。

この中学生の受け入れに関しては県教委の方針の都合上3カ年計画となっているようですが、その後は独自で継続していきたいと思っております。

なお、私たち職業奉仕委員会では本年の活動計画として体験受け入れの際には必ず

ロータリアンは常に“職業宣言”に基づき仕事をしていること

“四つのテスト”を用いて常に自分に問いかけていること

を、説明してロータリークラブへの理解と関心を持ってもらえるように努めようと提唱しています。

やはり、ロータリークラブとして、しかも職業関係での奉仕をするに当たっては、このことを外部にアピールするのが一番重要事項ではないかと考えています。

他のクラブの皆様方も、そのような機会には是非実践して欲しいと思います。

また、職場体験を受け入れすることにより職場に新しい風が入り、事業所にとっても良い刺激にもなることがあります。

職場体験の受け入れはロータリーの広報、社会への奉仕、自己の職業観の見直し等、まさにロータリアンにとっては最適の奉仕活動であると思います。

今後とも、職業体験の受け入れの事業は継続して行きたいと思っております。

このような事業を、まだ取り入れていないクラブの皆さんには是非おすすめしたい事業の一つであることをご紹介させていただいて本日の意見発表とさせていただきます。

海南西ロータリークラブ





次回ホストクラブ会長挨拶



閉会の挨拶

IMのホストクラブを代表して、閉会のご挨拶を申し上げます。

本日は、朝から雪の舞う寒い中を、ご出席いただいた皆様方に心よりお礼を申し上げます。たくさんの皆様をお迎えすることができたこと、担当クラブとして大変感激しています。平尾ガバナー・小島ゼネラル・リーダーはじめ、パストガバナー、地区役員の先生方、長時間にわたり、ご指導ありがとうございました。

2005-06 RI テーマであります、「超我の奉仕」を今回のフォーラムのテーマとして、各クラブの代表の方々よりの貴重なご意見の発表、ご苦労様でした。

更に、海南市立第三中学校の今川校長先生の「体験してみなければわからない」とのテーマで、生徒さんの職場体験のお話を大変興味深く拝聴させていただき、また、吹奏楽部の生徒さんのブラスバンド演奏ありがとうございました。

今回のIMは、我々ホストクラブとして、人数が少ない中で、神出実行委員長を中心に全員一丸となり、準備を進め、今回の開催の運びとなりました。が、本日、ご出席の皆様方に、決して満足のゆくものでなかったかと思ひますし、失礼なこと、また、ご不満もあつたか

と存じますが、ロータリーの寛容の精神と友情をもって、お許し願います。

これをもちまして、本年度のインターシティー・ミーティング閉会と致します。
皆様、長時間にわたり、本当にありがとうございました。